



発刊にあたり



仙台市ガス事業管理者
佐藤 均

平成23年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が発生しました。この巨大地震は大規模な津波を引き起こし、東日本各地に大きな被害をもたらしました。

本市の港工場にも津波が押し寄せ、冠水により受電設備などが損傷したため、約36万戸のお客さまへ都市ガスの供給を停止せざるを得ませんでしたが、地震発生から1カ月余りで、被害が甚大な一部地域などを除く約31万戸の復旧が完了いたしました。これは、日本ガス協会をはじめ全国のガス事業者の方々の供給再開へ向けた懸命な努力と、関係省庁や地方自治体、関係企業など多方面にわたり、多大なるご支援、ご協力をいただいたことによるものと、心から感謝申し上げます。

また、供給を再開するにあたり、新潟からのパイプラインによる天然ガスの受け入れの際には、関係事業者の皆さまから格別なご協力をいただきましたことに、改めて厚く御礼申し上げます。

昭和53年の宮城県沖地震以来、仙台市ガス局では地震対策に取り組んでまいりました。その結果、地震による設備の被害は最小限にとどめることができましたが、大規模な津波により甚大な被害がもたらされ、お客さまには大変なご不便をおかけいたしました。今後はこれを教訓とし、これまで以上に災害対策を強化し、安定供給のために最大限の努力をしておりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この度、地震の概要や被害状況、復旧の取り組みを記録誌として編集いたしました。今回の経験を風化させることなく後世へ伝え、ガス事業者はもとより、防災に携わる方々に活用され、今後の災害対策等の一助となれば幸いです。

震災後に初めて再入港したアマン・センダイ(平成23年11月29日)